亜墨新話

中

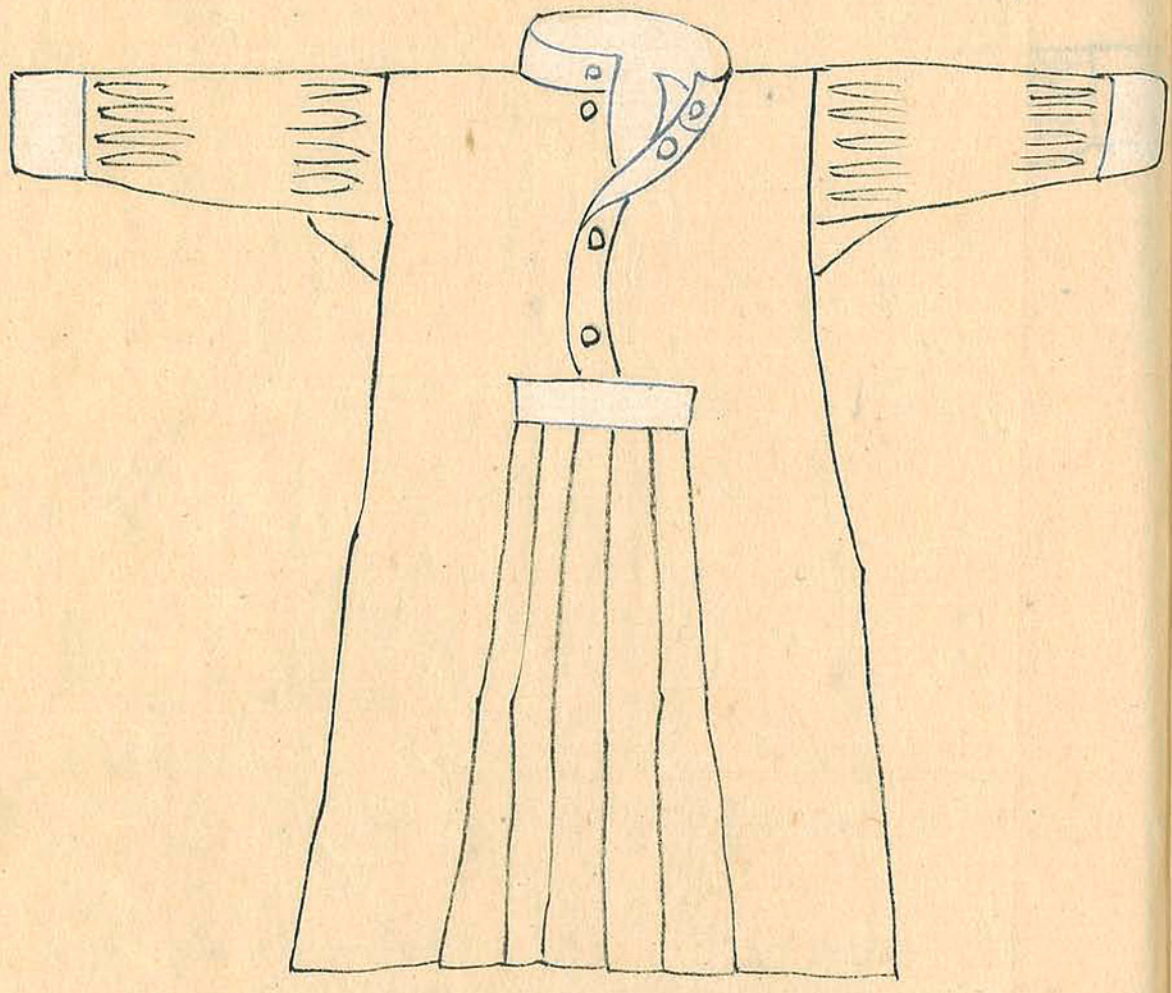
服飾

男子の衣服は長崎に来る西洋人にさしてかはれることなし
カミシヤといふ繻絆のことなるの白き西洋布或は麻にてしらへたるを
膚に着ることにチヤレコといふ袖なしの中着横に結絆織と竪に毛と
織る服連の絆なるものに羣しき様なるものの或は紋繻なるとなて
掛るを着ることにチヤケタといふもの絆着る是にて多く絆紋にて製
せり股引も下にはきて麻布絲等にてしらへ(カリソンセヱヤといふ)
絆紋にてしらへたるバンタロンといふ絆をなり衣服上下ともいつもぼるん
尚にて紐をもしることなし頭にて絆紋にて掛る帽に絆かぶるカチ
チヤといふは額の下にまるつを日覆ひ有シヨコブレロといふ周圍に日覆ひ

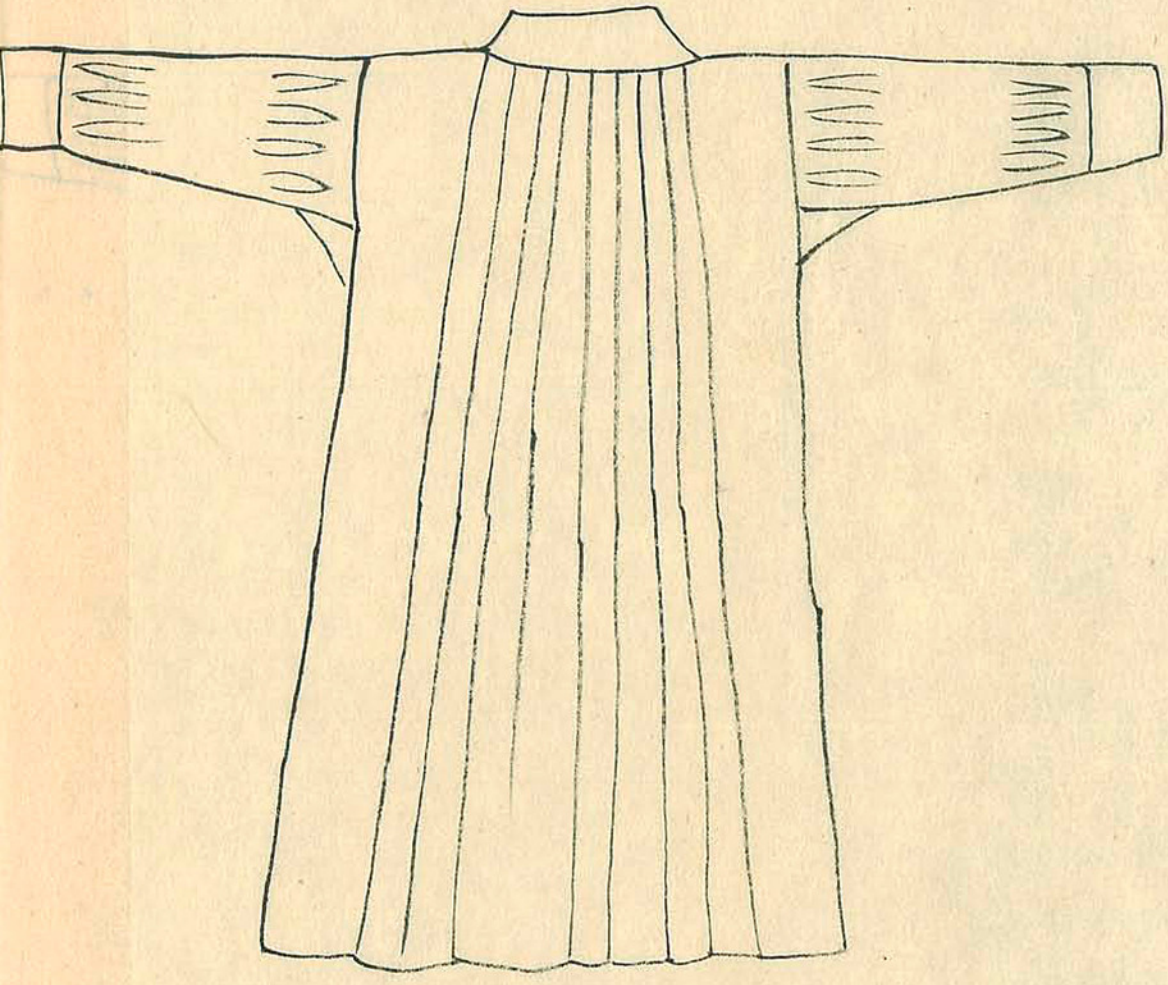
男子服飾の図

カミシヤ前

男の臑伴（シコバン）へ白き西洋布（カヤキンモノン）にて拵へ鈕（ボタン）かけにて度々着かゆるなり



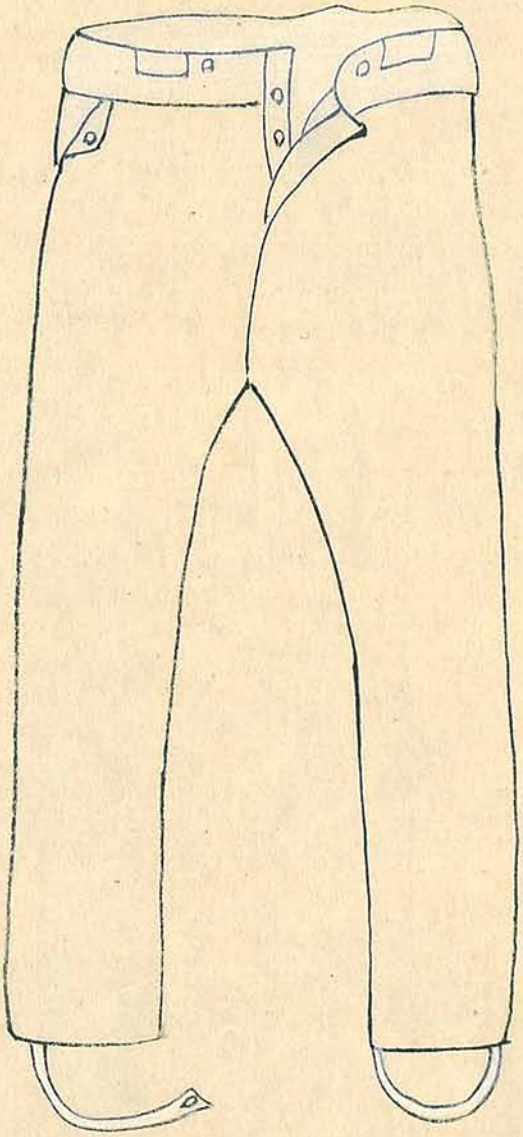
同脊



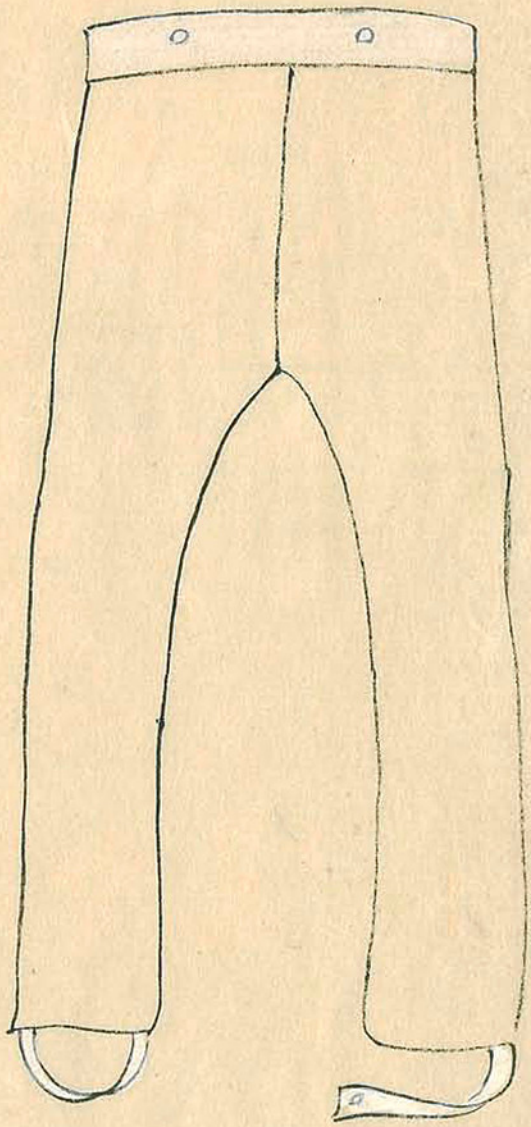
バンタロン

褲なり白き毛織のその又は羅紗(ラシヤ)なとにてつくる

前



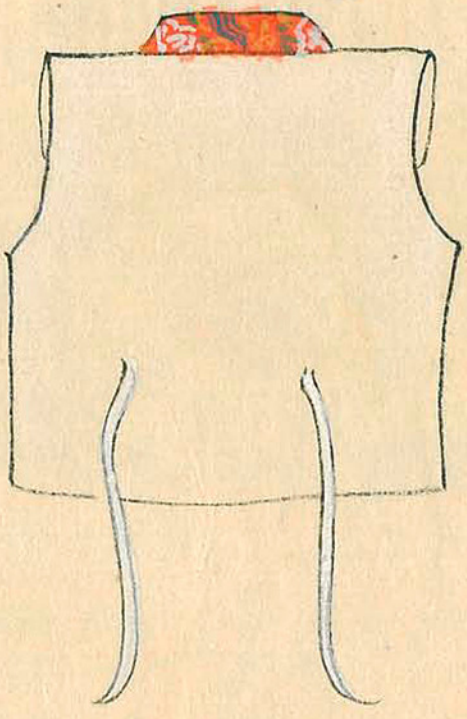
同
後



チヤレコ前

袖なしの裏衣(ナカギ)なり羽毛緞(ゴロフクレン)の
出と見えたのに麗(ウルハ)しき花様(モヤウ)なる
花の又ハ花緞(モンジユス)等にて製ひ

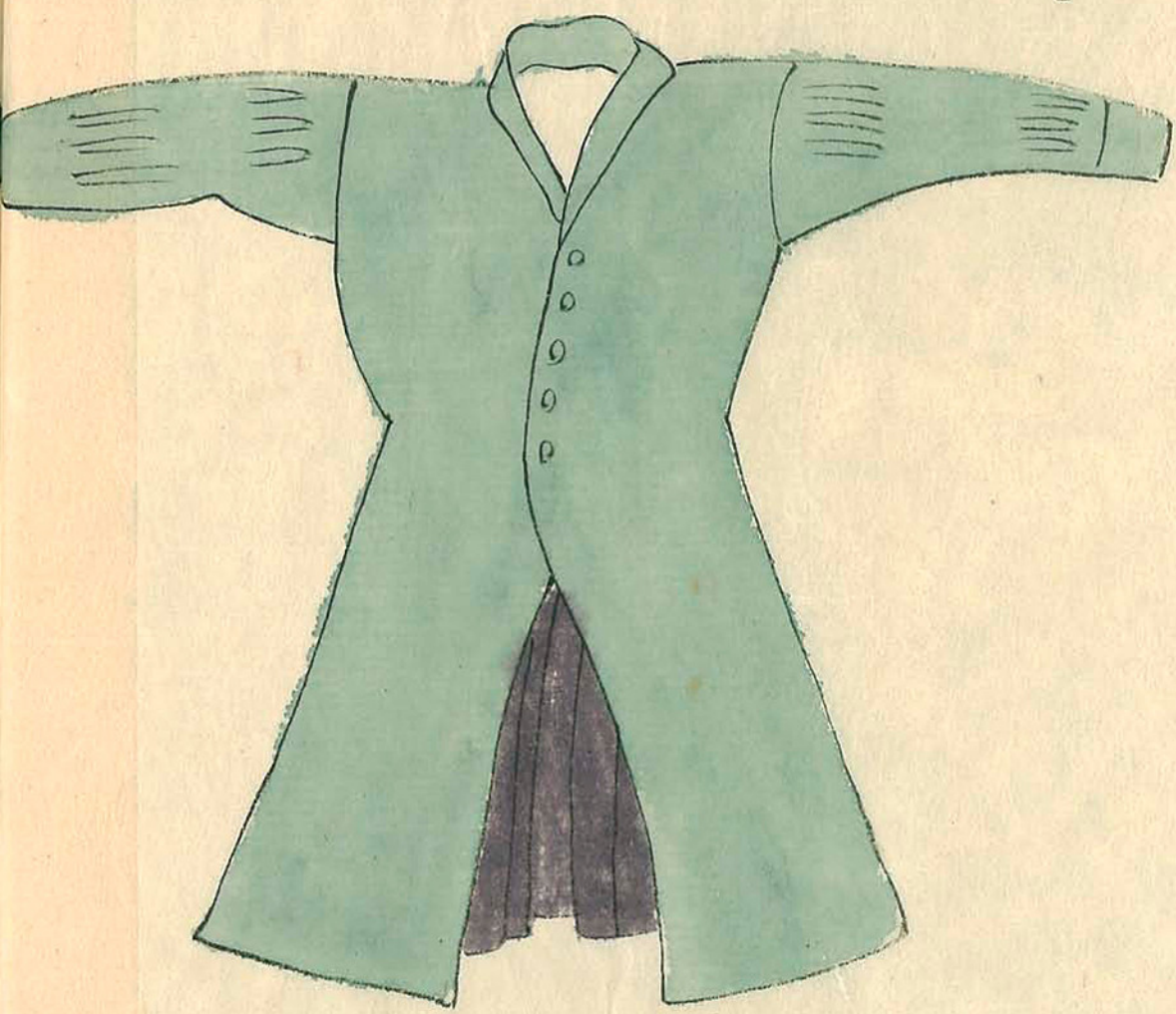
同脊



脊は白き木綿にて作れり

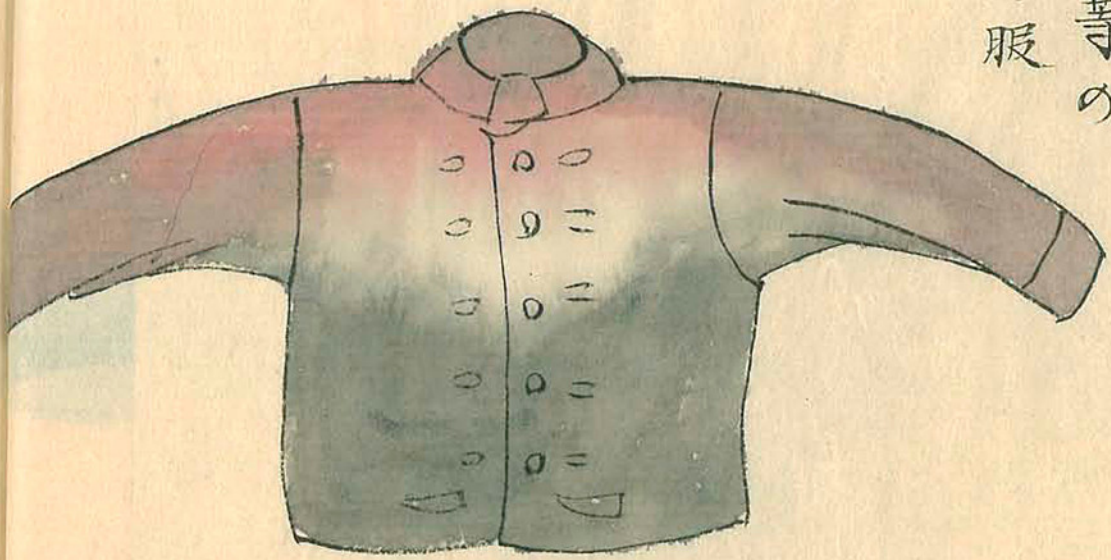
チヤケタ前

表衣（ウハキ）あり二
多くハ大泥
ニ製次

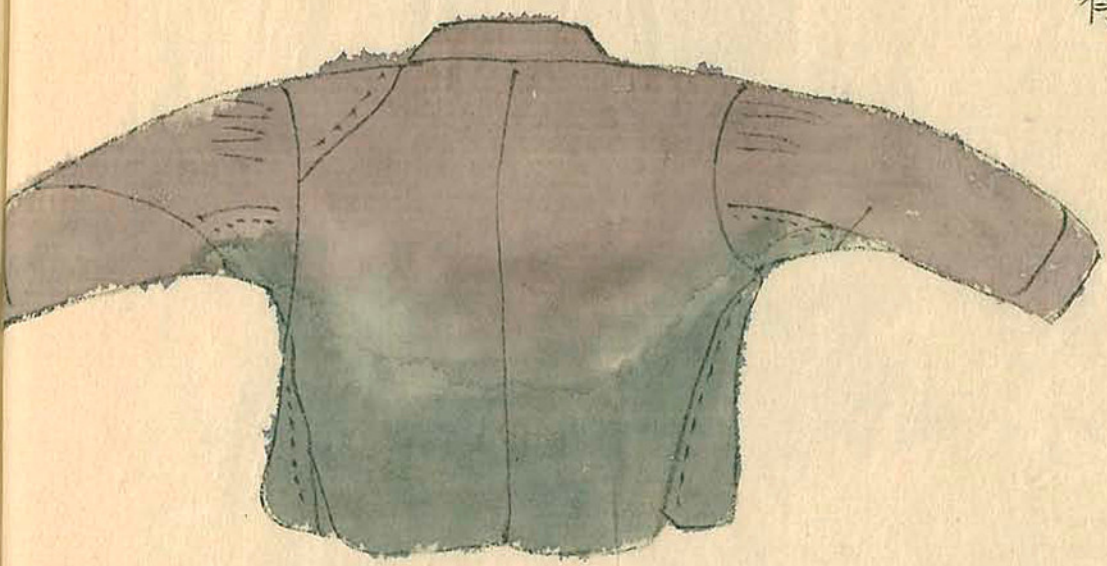


同脊

銃卒等の
下賤の服

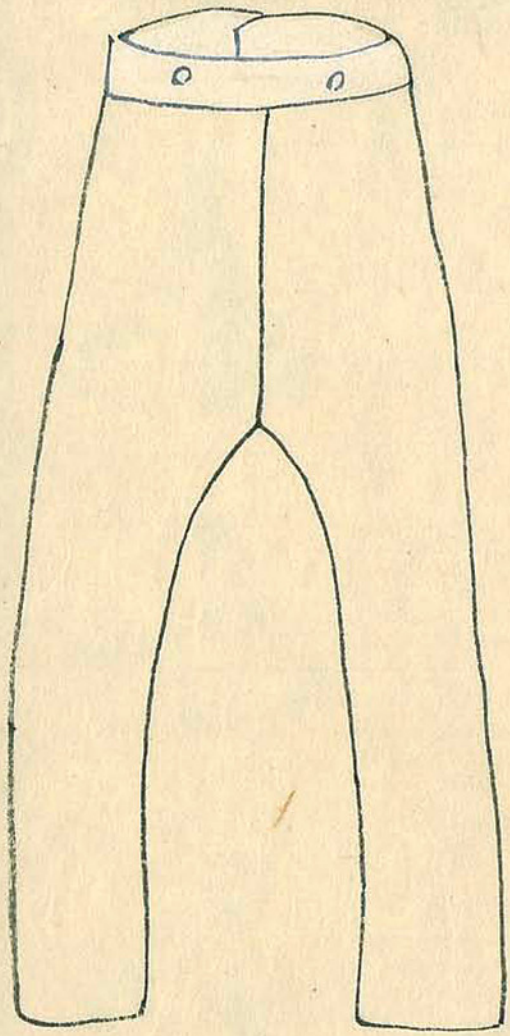


脊

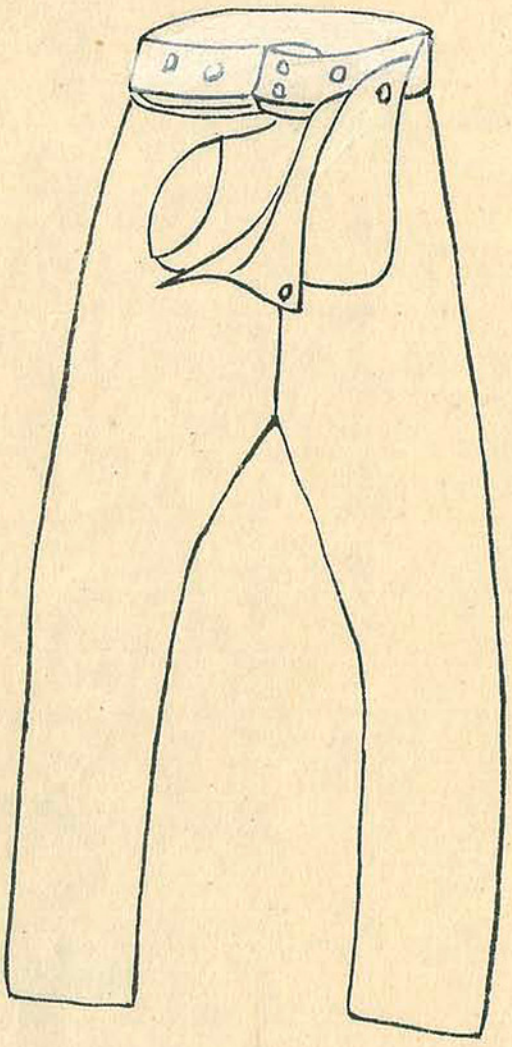


同
褌（モヽヒキ）

後

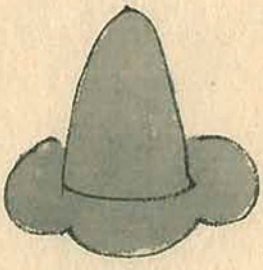


前



帽種の形なり

ショコフレロ



カチロ

此形のこのは銃卒なと多くかぶる

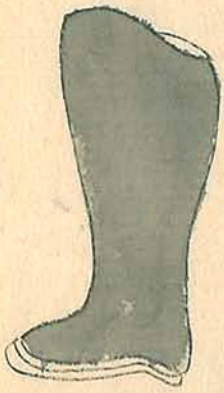
サパト

襯靴（シタグツ）莫大小（メリヤス）にて作る

履

同底

靴（ツヽナカノクツ）

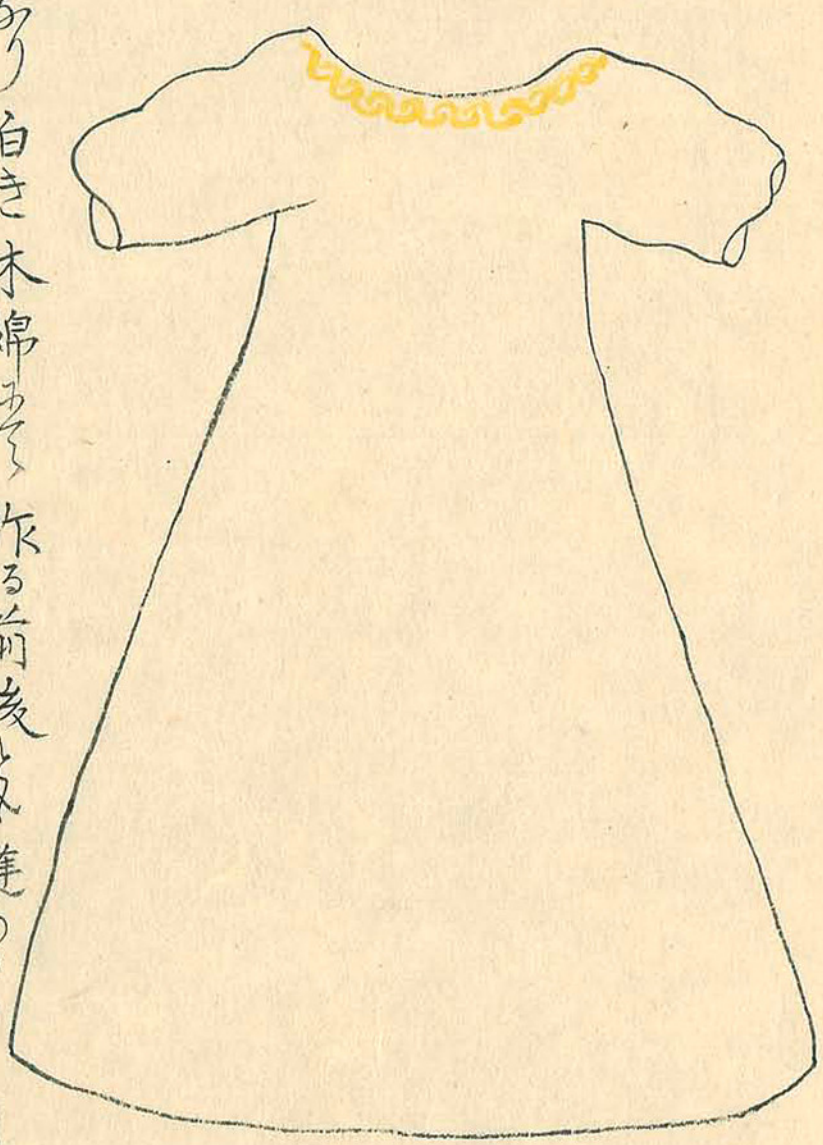


同底

いつもも表は羊皮にて製し底は牛皮の三枚重なり

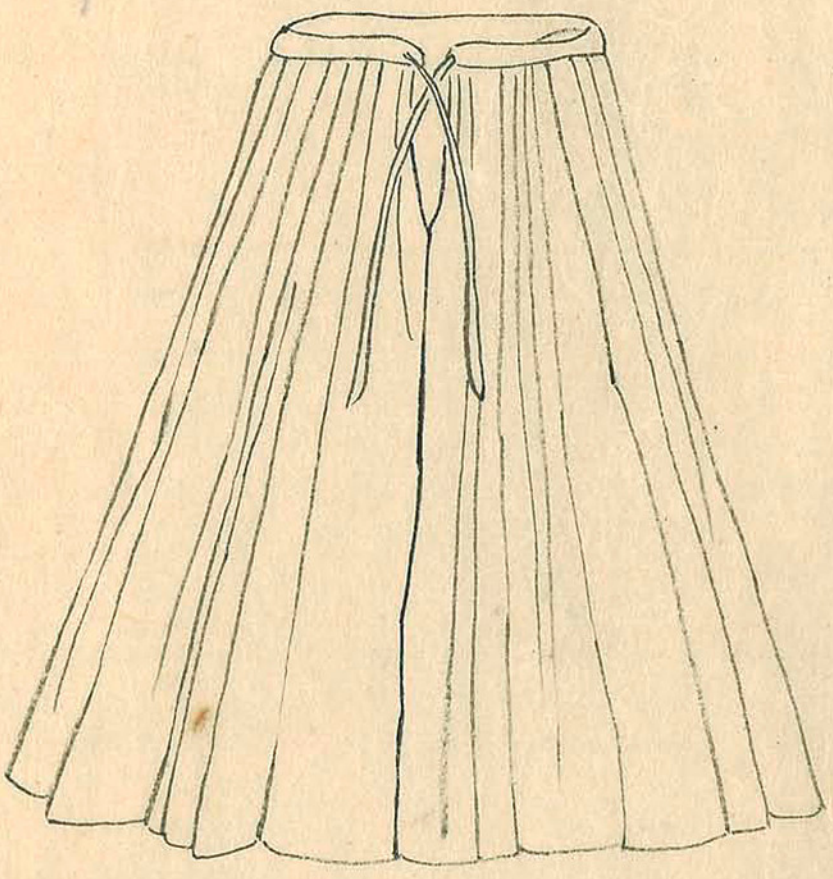
婦人服飾の圖

カミソン



女の襯衣なり白き木綿にて作る前後とも縫つめにし首をさしこむ
穴ありて腰より上は單へにて腰より下は三重なり

ナニグワ



女の腰ふとくその上出家の腰衣のごとく襞（ヒダ）積り

ヌレホーリ

女の頭にかぶるもの也 幅四尺 長さ八尺ばかり

結(キ)帛(ヌ)ゆるひハ形付の西洋(カナキン)布にてつくる

女の表衣

前ハ縫つめにし脊にて合せかけとむるなり

絹帛或ハ麗しき花布（サラサ）を用也

胸の明き至て
廣く肩の半露る
なとなり

背

ソウボレヌ

一種図のごとく
四角なるもあり

女の下襪（タビ）

メリヤスにてつくり

女の履

上は木綿にて
さらく皮の一
枚底なり

ベイ子 櫛なり
女の頸(クビ)にかくる飾
珊瑚樹の玉にて作る
大サ 図のまゝ
女の耳にかくるこうざり

鐵炮備打の時
一組の大将并
喇叭手出立の
図

銃卒

ソルダト

厚き皮にて
さしらへる大なる
銅卵に皮の紐にて
を左の肩より
右の腋へ袈裟
かけにこの者其中にて
成にてさしらへる早合
を多く入れるなり

銃陣調練之圖

喇叭我吹て人を駈引し隊長鞭我持て下知をなす或ハ進ミ

或ハ退き或ハ圓く或ハ

長く或ハ左或ハ右

或ハ走り或ハ徐に

歩ミ色〳〵の備をなす

鐵炮を打ても或ハ立て放し

或ハ中腰にて發し或ハ

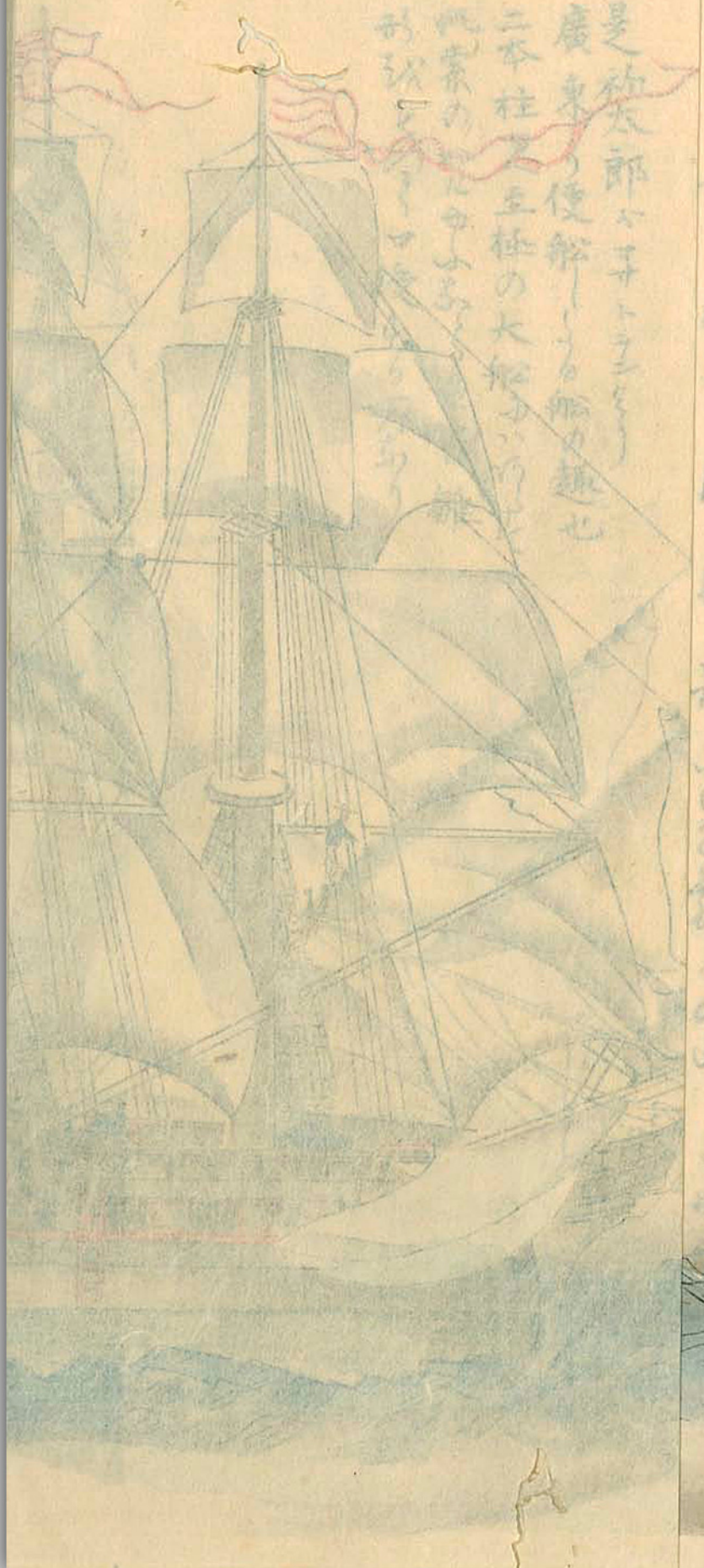
片膝をつきて發し

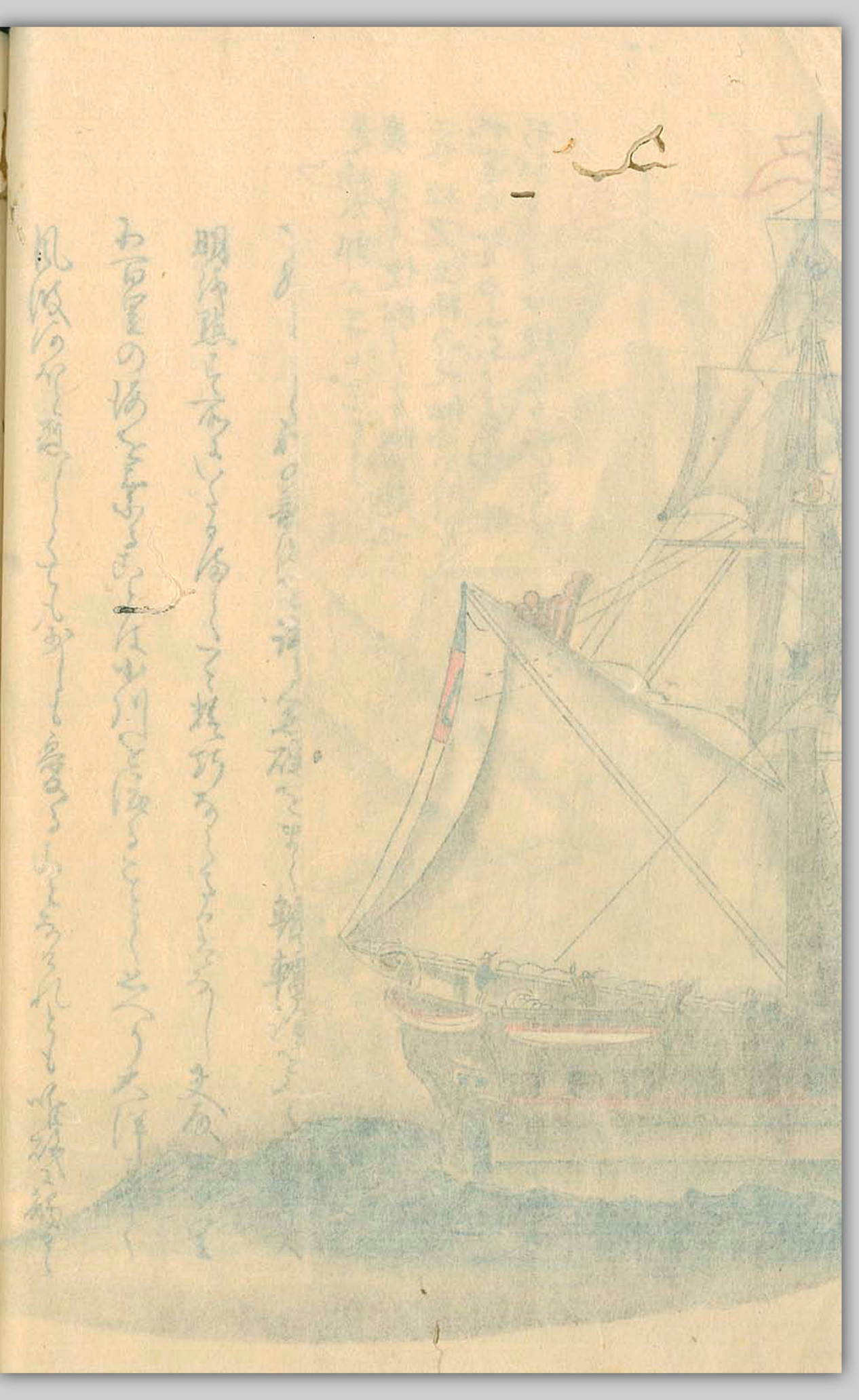
或ハ匍匐になりて
発しさ海くの品越
かへて演習(ケイコ)越
さてもなり改装(コミカヘ)
おなれ支至て
早く手拍子能く
揃ひて数十挺の鳥銃
少も遅速なく一度に落し
只一斉のおとし聞也
行列正く脚歩(アシドリ)越整へて
駈引せる故後まで先たれ其の時し隊伍の体甚美観(ミコト)也

時は鐙を踏ませ立車にて馬の後をいつまでも馬来るかけ出ぬ之
む鞍をも見ゆ三郎自身の鞍より銀にて細長き方なり結束
を結ぶ中に心を入れ撥へるもいつ歟と云へし畜ひて其山に
放し並て後なる鐙迄寄せ来るを必ずを乗てかけ巡り追立之
小兒六十家の時より皆馬鐙弄ひて乗先らぬ夜一る術也
いつまもなくれども自然と皆に上手に乗る之馬の鬣(タニガニて)を切撥
さるゆと自身に同し小鐙の者にてもかしをさき不入行ゆえ
必馬にのる鐙にて逆鐙にいつしゆと非し如き鞍のまま横向
まなりて乗るなり

舟船

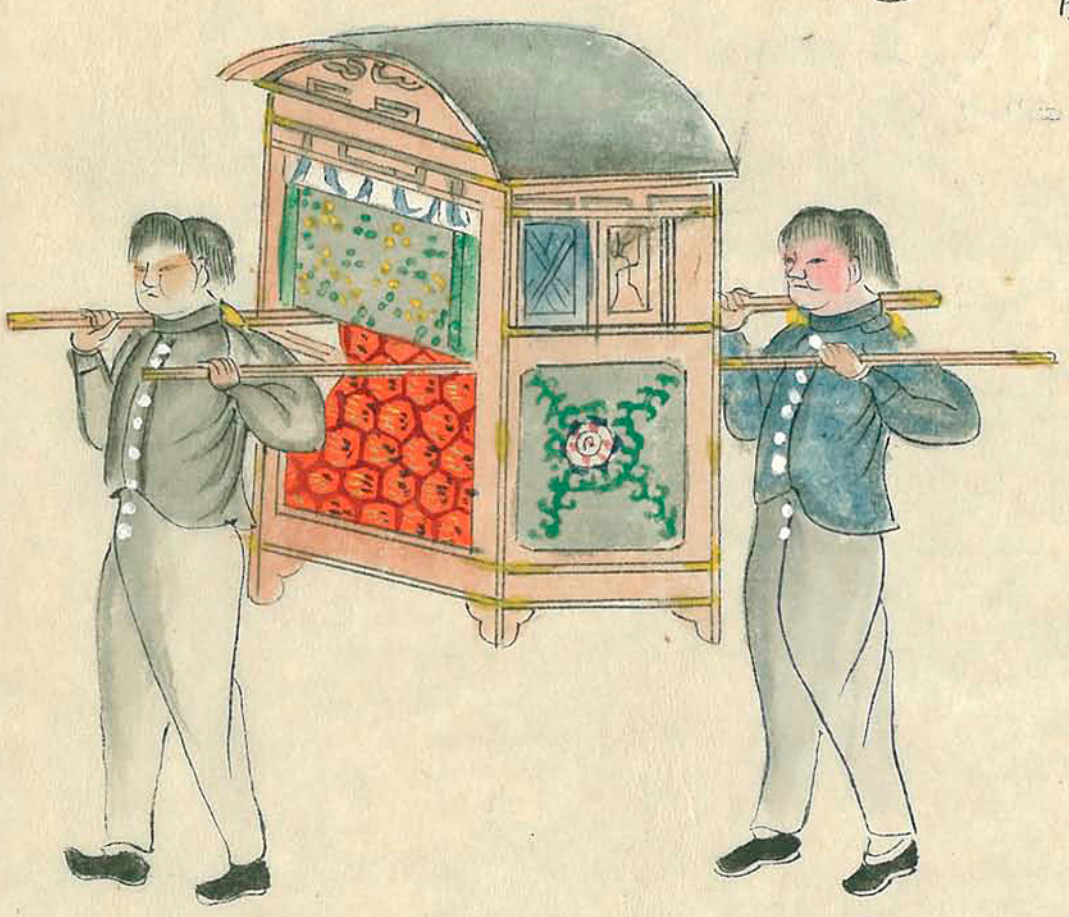
舟の惣名をバリコともブケともいふ帆程一本の小船をバランダといふ
帆程五本の小船をベリカンテコレタといふ　同し大船ベリガンテ中
いふ三本程の大船ハフラガタといふ　舟の作り惣体丈夫にして底ハ
調まて色々上ハ色りハ油塗にして白く遠く塗をけ帆程を造程に
しく伸縮の出来る様にし帆ハ白き麻布にて極へ小さくしてく
様なくし帆様を風の強弱に應して増減し帆程一本に十ヨ斗りも
かつてあり舳（ヘサキ）先にさし出したる帆様に記し紀念なる帆なとなり
さく色々と風体使ひ分とを子の方より風使ひも亥ゟ丑ゟ向ひて
さそらしてなり故に風の順逆にかゝはらず至れるものは舟の人をまた





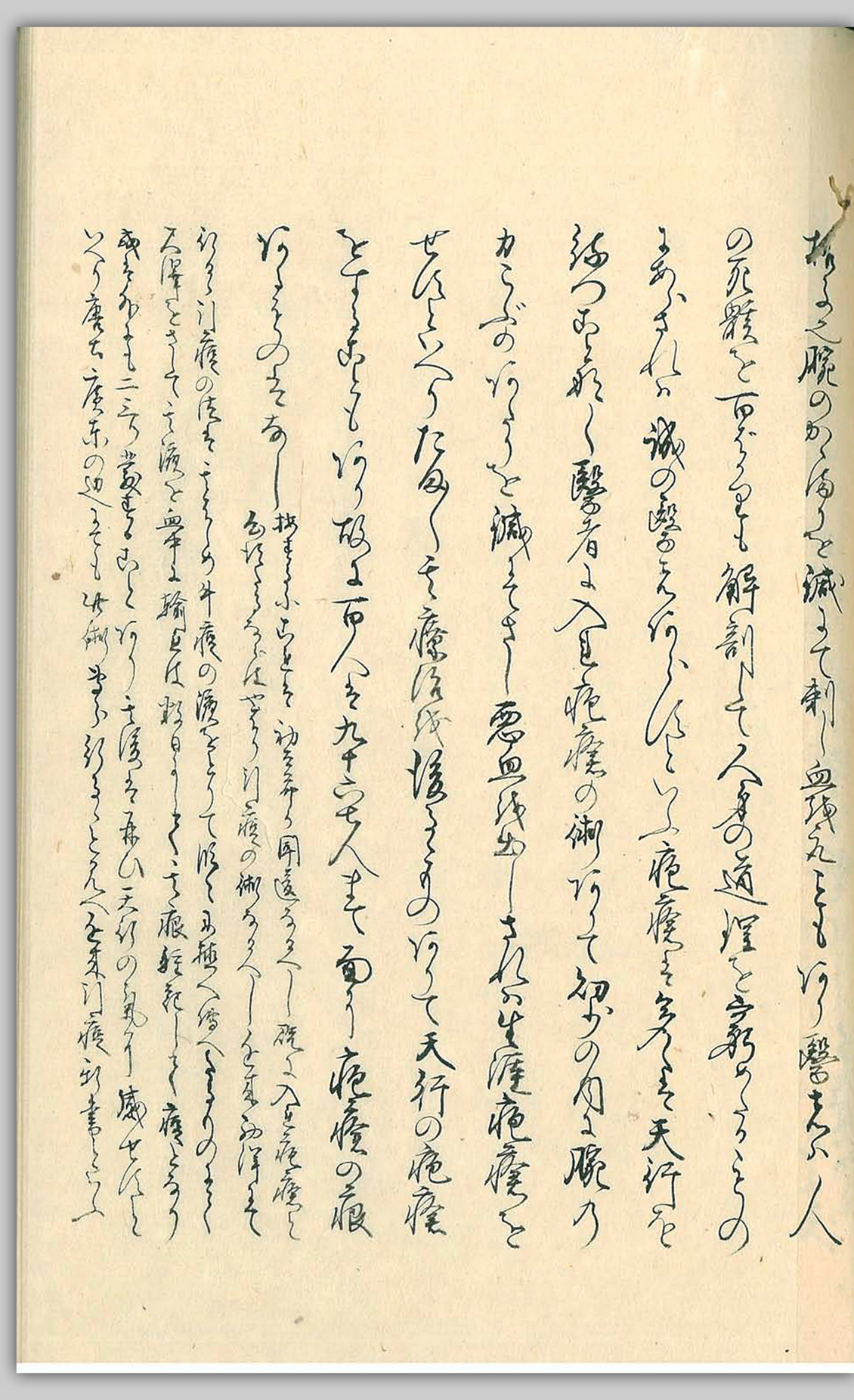
婦人轎に乗る図

乗時ハ前の方の
幃をかゝけてのる也

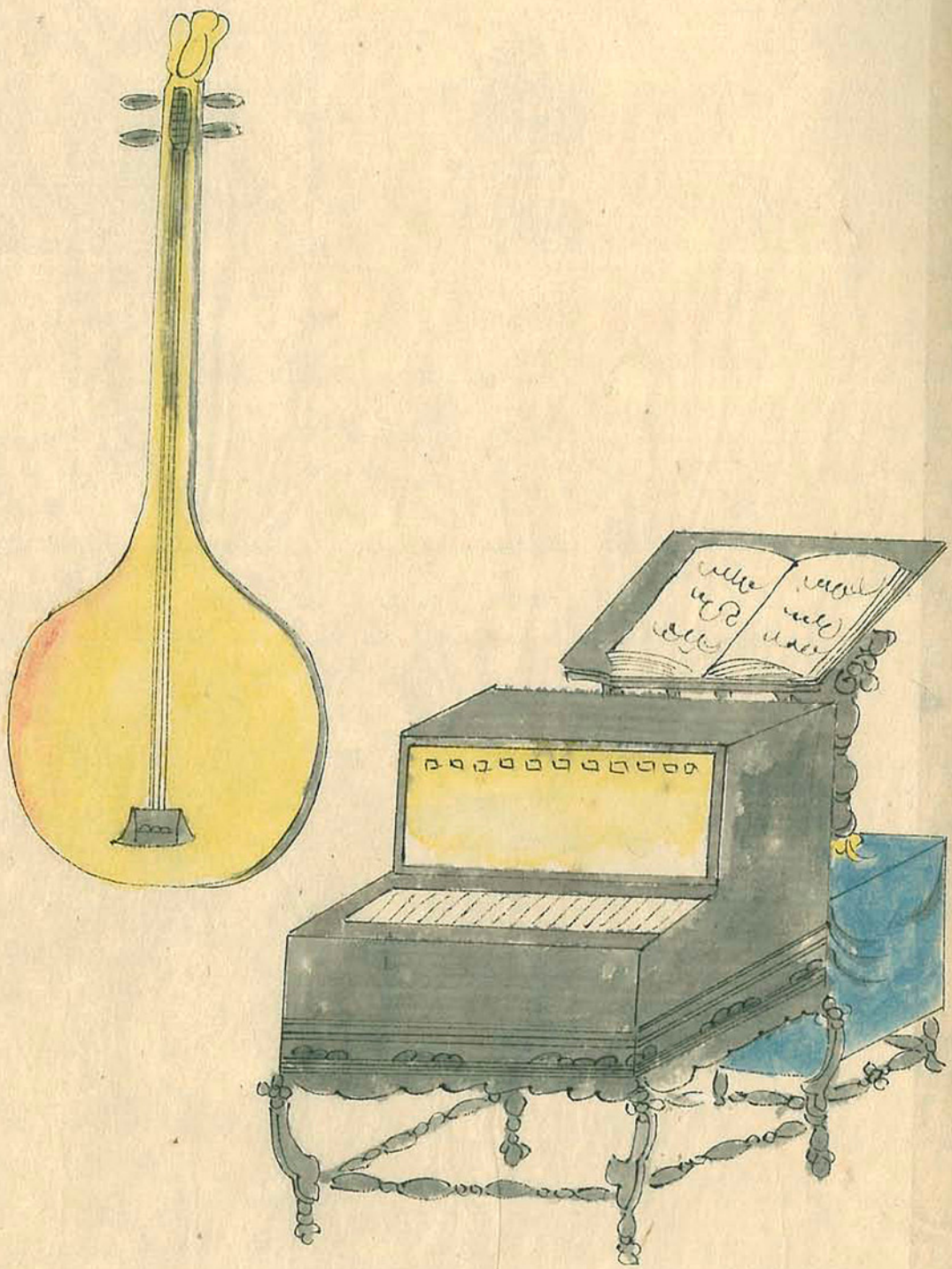


婚姻の式乃圖

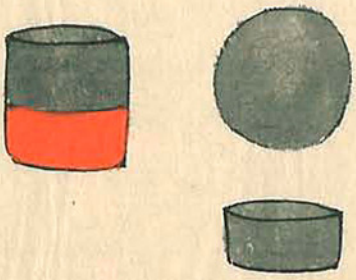
アメリカ語にては
カサルといふ

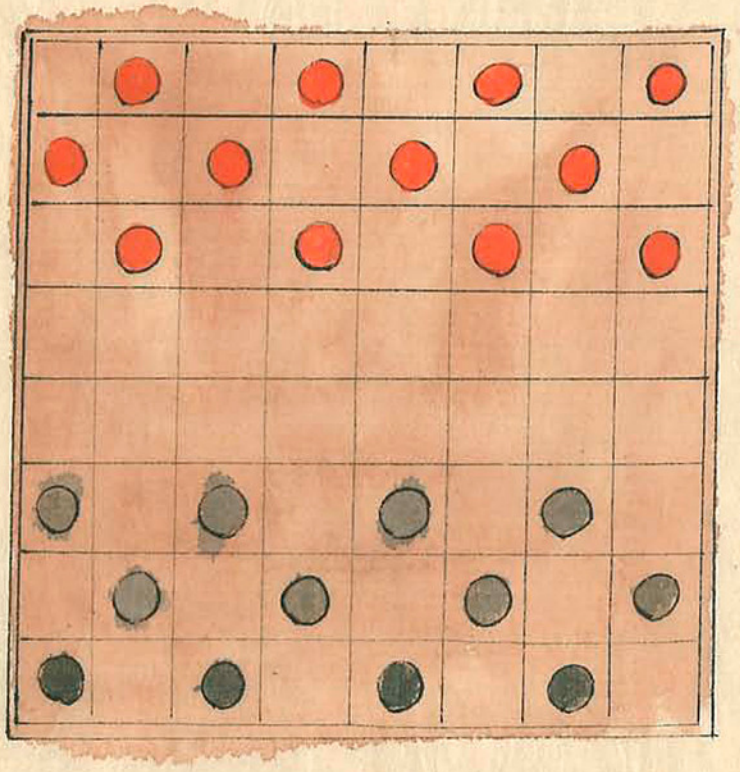


抜き之腕のかゝ傷りを滅まて刺し血液丸とも御醫者ハ人
の死體を百ばかりも解剖して人身の道理を窮めたりとの
まあらされハ誠の醫者ハ御ふしはといふ疱瘡を名ゆへ天行を
絶つまゝ能く醫者ハ入見疱瘡の術ありて初少の内ハ腕乃
カラぶの御ふりを滅まてさし悪血液出しされハ生涯疱瘡を
せはしくりた風し其療治後後まゝもの御りて天行の疱瘡
をすまゝもの御り故ハ百人を九十六七人まて面り疱瘡の痕
御ふりのまゝなし　抜まゝふしまゝ初ハ年の開後なるへし既ハ入見疱瘡と
云はるゝなるはやうり引痕の術なるへし全其所洋まて
御ふり引痕の法をさしめ牛痕の液をとりて服を以抜へ繰へまゝりのまゝ
天澤をさして其液を血中ハ輸ハ日ましまゝ其痕軽軽しまゝ痕となり
或ハ如ハも二三ヶ蒙まゝおとゝ御ふり其液を再ひ天行の氣ハ滅せはと
いへり唐ハ廣東の辺ハそも此術まゝ行まゝとゝんへ全其引痕新書といふ



五六分なる銭を出しと並へ横文字を来月より歌の譜本と覚
しきその銭見廣にのせ夫銭見なれば千本の指にて象牙の
板銭なりとおもふて押せば策の中にさ海くの青なりて拘れ
し諸々吹ゆるなり
一象戯の様なるその所り局子（バンコマ）とも木にて作る一方の子は黒く
一方は赤し局は四方にしてハ道なり子は丸し行ときハ一
間ヲ斜に行なり其子銭行て行事に時は象子銭をつゝ
敵の子銭を越ゆ其ハ即ち敵の子銭を取なり敵の子二ツ三ツ
連りなりて一度に充ひ越ゝ二ツ三ツとも食なり脇に進ミ
行く間は其に都行ことを許さず進むことを極りて向ふ乃





將の道よりすれは食しる敵の手段家子の上手かさね是は
陣と云 陣屋 陣屋る 手まて 節行 陣を除す ありける如く
して敵の手段取つくしたる戦術とするなり爲敵の手を
固め出しし成たる時は毒の手立まり在は縁を偽ひ是越
て二ツたとるさ
一角陣の飾毛ありハラハラと云ふ一陣銭をなして数をふて銭ハラハ
ラヨカルと云ふ陣の様子罕枚をつつ包ついて作り布く深く
金の揔根ありて揔根ハ右にて人物して銭画して書がうら大揔本
の名合せとの事の出て揔根をありてこれ目安なり陣よ
若殊の忍ありて四人 メ卅の上下て 四角より周りて打て除

此旗ハ高麗輸贏を比ふる時に名誉出したるその旗なる
陣に出合して殺く四人武組に分りて猪首錢出る迄陣迄

まぜ合するは日本のならひ濫觴にしては切られ横なまく
須くよきしるしみまぜ合すなり

一 蹢毬（テキキウ）の義ハ木にて丸きつその径弐寸斗なる毬打一毎人

小銭十六枚にかゝる白布の小判を一朱とのあらし中銭に程行り
大銭ハペセタといひ小銭をメリウとらふ中銭の小銭計枚に当る
この銭ウシリヤアリとらふ白布の二朱のまし四枚に当るものをドウリ
ヤアリスといふ白布の一歩のことし八枚に当るその銭分トロリヤアリス
といふ白布の五歩金のことし六枚をテレイシリヤアリスといふ元に当る
銭ハなし銅銭行り絵あるまゝかゝる元なし文字なし此銭四文をも
つて小銀銭一枚に換ふ金の價ハ銀より十六倍なり金銭重さ七
匁五分のものを大銀銭十六枚に換ふ廣東にて大銀銭一枚を
賣ふ也銅銭ハ黄銭四文となる

白布の判金をもつて大銀銭
八九枚にかゝるよしに受かり

大小銀銭の図

大さ大抵畨のごとし

ペセタ

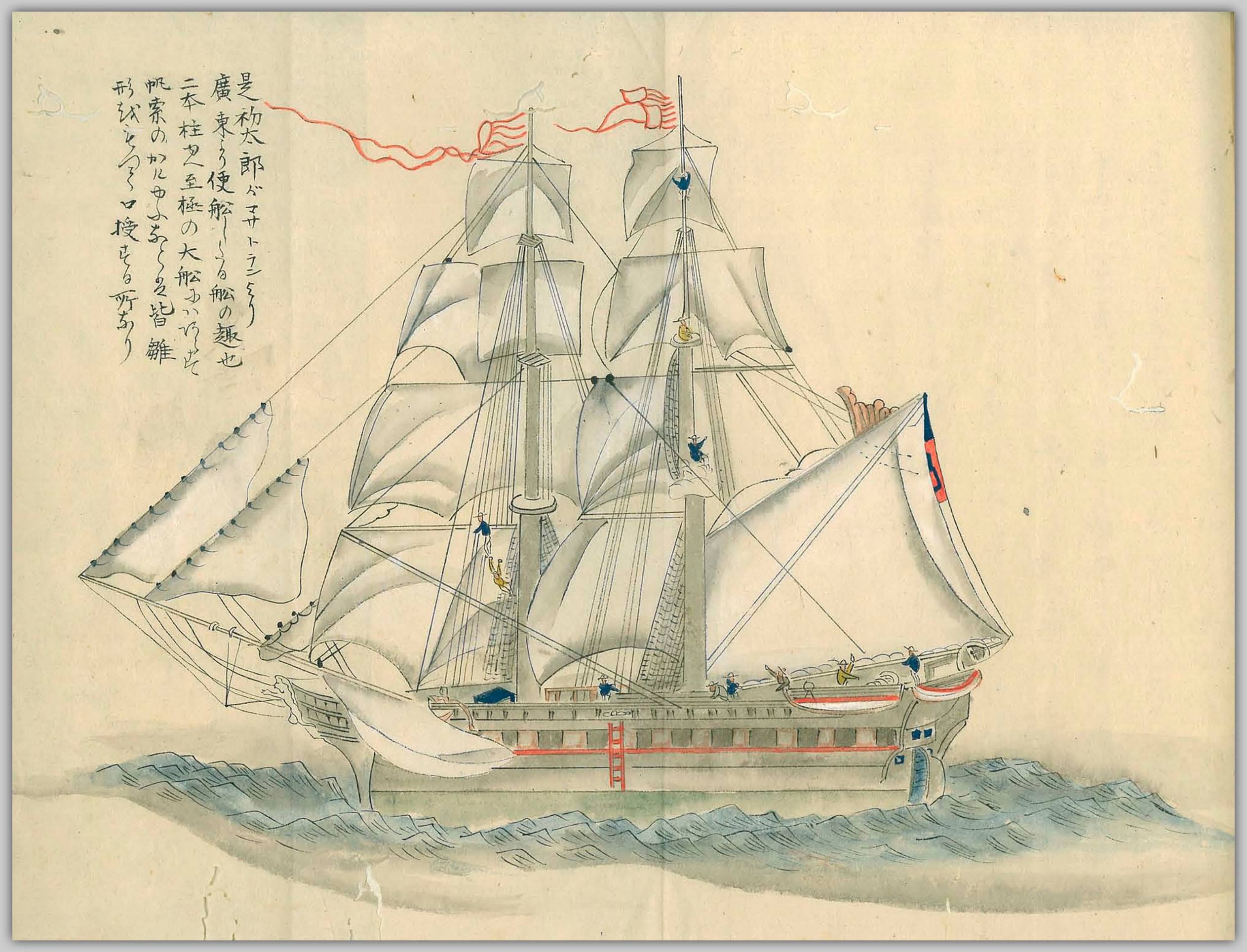
クワトロ
リーヤーリス

ドー
ソーヤーリス

ウニ
ソーヤーリ

メリウ

一種かくのごとき花
様のものも有り價
大銭と同じ


是初太郎がマサトランより
廣東より便船しける船の趣也
二本柱也至極の大船にいたらせて
帆索のかんゆふなるを皆雛
形ありて口授する所なり